

目標設定シート (2009年度)

部局と評価項目・要素

| | |
|------------|---|
| 対象部局 | 経済学研究科 |
| 大項目 | 6 教育内容・方法・成果 |
| 中項目 | 6.3 教育方法 |
| 小項目 | 6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。 |
| 要素 | 教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院） |
| 小項目 | 6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 |
| 要素 | シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性 |
| 小項目 | 6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 |
| 要素 | 厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性 |
| 小項目 | 6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 |
| 要素 | 授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施 |

○2009年度からの目標

1. 学部と連携した5年一貫教育体制を確立し、研究科博士課程前期課程開講科目の学部生受講を促すことにより、講義形式の科目を増やす。
2. 演習担当教員に加え、複数教員による集団指導体制の強化により、学位取得プロセスに位置付けた研究指導体制を確保する。
3. 博士課程後期課程では、ワークショップ方式の科目を新設し、大学院生が自著の研究論文の報告、論文サーベイする能力を向上させる。
4. 博士課程後期課程学生に学部科目などを担当させ、授業担当能力を高める。

○指標

1. 学部受講者数、学部から大学院進学者数。
2. 共同演習開講数および受講者数。
3. 院生の国際学会報告者数および報告件数、国内学会報告者数および報告件数、経済学ワークショップ報告者数および報告件数。
4. 博士課程後期課程学生の学部科目担当者数。